

新都庁舎の建築から開庁へ

—新都庁舎 落成から移転まで—



新都庁舎落成式 『新都庁舎建設誌』(請求番号:財務 F91)

第一・第二本庁舎及び議会棟庁舎合わせて 38 万㎡にも及んだ新都庁舎は約3年の年月を経て完成し、平成3年(1991)3月9日、落成式が執り行われました。

そして、いよいよ行政機能を丸の内庁舎から新都庁舎へ移転することになります。約1万3千人を超える本庁職員、膨大な書類、OA機器及び備品等かつてない大規模な移転ですが、都民サービスの低下や行政の停滞は許されません。そのため、開庁1年前の平成2年4月1日に知事を委員長とした「新都庁舎移転対策会議」を設置、①移転準備指針「新都庁舎への移転に向けて」、②新都庁舎移転実施計画、③新都庁舎移転のネーミング(いちよう(移庁)作戦)を決定、この決定を受け、全庁的な協力体制が整ったことにより、移転は無事に終了しました。

そして、平成3年(1991)4月1日に開庁し、業務がスタートしました。



移転の様子 『いちよう作戦(移ちよう)作戦 都庁移転の記録』(請求番号:財務 F76)